

子どもたちへの支援に役立つ情報を伝える

中河内ブロック支援通信

第2回中河内ブロック研修会

全ての子どもを幸せな大人に!

1月7日（月）に東大阪市立男女共同センター・イコラムホールにて、今年度第2回目となる中河内ブロック研修会を行いました。東大阪市、八尾市、柏原市の幼、小、中学校、支援学校より計191名の教職員の方々にご参加いただき、会場はほぼ満席の大盛況となりました。

今年度は、梅花女子大学／大学院の伊丹昌一教授を講師としてお迎えし、『全ての子どもを幸せな大人に!』という演題でご講演いただきました。

“最近気になる子ども”として、インターネットゲーム依存症、CU特性、起立性調節症、そして特に最近取り上げられることの多くなってきた反応性愛着形成不全（RAD）や twice-exceptional(2E)についてなど、たくさんの情報を分かりやすくお話いただき知識を深めることができました。また、それぞれの特徴や捉え方だけでなく、伊丹先生ご自身の多くの経験の中から子どもに対する理解や具体的な支援の方法まで丁寧にお話いただきました。さらに、長期にわたる子どもの支援に必要な不可欠なツールとなる個別の教育支援計画のあり方や重要性、“私メッセージ”と“怒りのピークは6秒間”といったような、日々子どもと関わる上でのコツについても触れていただき、限られた時間でバリエーション豊かな講演となりました。

講演終盤の、「私たちが子どもたちに愛情を注げば、それは必ず子どもに伝わり、いつまでも消えることはない」というメッセージからは、「明日からもまたがんばろう!」と思えるような元気と勇気を与えていただけたように感じます。実際に、講演後のアンケートには『元気をもらった。』『子どもたちに合うのが楽しみになった。』『自分自身を見つめ直す機会になった』『実践に生かしたい。』といった前向きな感想が多数綴られていました。

今回の研修会にあたり、素晴らしい講演をしてくださった伊丹先生、ご参加いただきました先生方、ありがとうございました。

最近気になる子どもたち

◆反応性愛着形成不全（RAD）

- 生後5か月未満までに親やその代理となる人と愛着関係が持てず、人格形成の基盤において適切な人間関係を作る能力の欠如。
- 2つの群
 - ①抑制型：他者に対して無関心→ASD（自閉スペクトラム症）に類似
 - ②脱抑制型：部分的な愛着関係の状態に取り残され、他者に対して無差別に薄い愛着を示す→ADHD（注意・欠陥多動症）に類似

◆twice-exceptional（2E）

- 特定の能力、技能についても苦手がある一方、何か他の得意な能力をもつ。
→文字の読み書きは困難でも、とても優れた視覚認知力をもつなど
- 発達の凸凹（得意と苦手のギャップ）は誰にもあるが、凸凹の両方が大きく、発達症と優れた才能を併せもつ子どもが、2Eとみなされる。
- 2E児には（大人の2E者も）、特性と才能両方の問題への対処が必要になる。

今年度も最終号までお付き合いいただきありがとうございました。来年度も引き続き、日々の支援教育の実践の参考となるよう、情報発信に努めて参りますので、どうぞよろしくお願いたします。

